



こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより
No. 3
平成 29 年 6 月 16 日発行

◇夏休みも夏休み明けも、子どもたちが笑顔で生活ができるようにするために 教育支援課 学校地域連携係

ある小学校では、朝校門であいさつした児童の表情が暗いときには、その場で声をかけ、学年主任や担任の先生にも伝えて、心配事がないかを聞いてもらっています。どの学校でも日頃から学校全体で先生方が子どもたちに寄り添い、僅かな変化を捉えて対応していただいています。

これから1学期や夏休み前までのまとめの時期になります。子どもたちが笑顔で夏休みを迎えられるように気を付けていただきたいポイントを紹介します。

<指導のポイント>

- 1 日常的に全職員が心開いて児童生徒に寄り添い、適切な対応をする。
(例：一日に一回は学級の子ども全員と話をする、つぶやきを大切にした授業をするなど)
- 2 児童生徒に「できた・やりきった」事実を認め、価値付ける。
(例：係や役割、ボランティア等、子どもが活躍する場を与えてやりきらせ、褒めるなど)
- 3 保護者には、まず児童生徒のよさを伝えた上で、課題や夏休みの約束について話をする。
(例：懇談では子ども自身に頑張りを話させた後で価値付ける、懇談がないときには配慮が必要な子どもの保護者には電話等で伝える、スマホ等の利用についても懇談を活用するとどの保護者にも啓発することができるなど)
- 4 配慮が必要な児童生徒には、夏休みも心のつながりをもち続ける。
(例：プールや学習会、部活動への参加等、積極的に声をかけ、学習や生活の見届けをする、夏休みが明ける前には、課題ができているかや心の準備ができているかを確認するなど)

夏休み明けは不登校の増加、落ち着かない行動等、子どもたちが精神的に不安定になりやすいことが予想されます。今のうちから学校全体で見通しをもって子どもたちや保護者に関わっていくことが、多くの子どもたちの明るい学校生活につながっていきます。

「清流の国ぎふ教師養成塾」をご存知ですか？

岐阜県の公立小学校・中学校・義務教育学校の教員をめざす大学生や講師が、経験豊かな指導者のもと、少人数編成の集団により、講義・演習などの実践的な講座を通して教員としての心構えや授業づくりの基礎を学ぶところです。



- ① **対象者は？** → 岐阜県の小・中学校の教員を志望する、県内外の大学3年生以上の学生及び県内外の学校に勤務する常勤・非常勤講師です。
- ② **会場は？** → 常勤・非常勤講師の方は、岐阜県総合教育センターとなります。サテライト会場として東濃会場・飛騨会場があります。
- ③ **日時は？** → 8月17日、18日、12月27日、28日（いずれも午後の3時間）、1月6日、3月3日（1月と3月は終日の6時間）です。
- ④ **申込みは？** → 岐阜県総合教育センターホームページ内の「清流の国ぎふ教師養成塾」にアクセスして募集要項をご覧のうえ、お申し込みください。
- ⑤ **その他** → 受講料は無料です。締め切りは6月30日（金）です。ふるってご参加ください。



きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

理科編



意図の明確な
3つの「もの」

小学校第6学年「呼吸前後の空気にはどんな違いがあるのか」を調べる時間を参観しました。一人一人に配付されたビニル袋【もの①】で口元を覆って呼吸をすると、何となく息苦しくなることを実感し合い、その理由を空気の組成に着目して考えることで、子どもたちが課題を見出しました。一人一人の予想に基づき、石灰水【もの②】を用いたり、気体検知管【もの②】を用いたりしながら追究を深め、酸素の一部を取り入れ、二酸化炭素を出しているという呼吸の働きについての考えを獲得していきました。終末では、二酸化炭素を満たした集気びん内と吸う空気を閉じ込めた集気びん内で、それぞれろうそくが何秒燃焼するかを確認させた後、吐き出した空気を閉じ込めた集気びん内であろうそくは何秒燃え続けようかを問う事象を用意されました。本時の学習の定着状況の見届けにつながる、本時と前単元の学習をつなげた終末事象【もの③】が見事でした。

音楽編

つくる過程を楽しみ、
創意工夫する
音楽づくり



小学校第5学年「打楽器の音色や音楽のしくみを生かしたリズムアンサンブルづくり」を参観しました。

3人グループの活動では、児童がつくる過程を楽しみながら試行錯誤でできるよう、書きかえ可能なホワイトボードを使いました。つくった作品を実際に音で表現する→修正する…を繰り返す中で、「『問いと答え』を入れてみよう」「最後は3人が一緒に演奏しよう」等、考えを出し合い、音楽の仕組みを生かした作品が完成していきました。ホワイトボードの活用は、つくった作品を音と楽譜で確かめながら自分たちの思いや意図を語ったり、互いの表現を聴き合ったりすることに効果的でした。

児童の活動する姿を思い描き、ちょっとした教具の工夫や活用をすることで、子どもたちの授業に向かう姿が変わったと感じる実践でした。

英語編



考えながら
対話をする

小学校第4学年が、「仲間が得意なことを知ろう」とお互いにインタビューをする授業を参観しました。児童は、「Can you play the piano?」等、相手が〇〇を、できるかどうか尋ねていました。尋ねられた児童は、自分がどれくらい〇〇ができるかをよく考え、質問に応じて「Yes, I can.」「No, I can't.」「Yes, I can a little.」と答え方を変えていました。また、授業の途中で、先生が「もっとたくさんの情報を聞き出すインタビューになると楽しいね。」とALTとやり方（表現）を示しました。そうすると、児童はさらに「What song do you like?」「What soccer team do you like?」と質問を重ね、答える児童も「うーん」とうなりながら、さらに即興的に対話するようになりました。

このように、既習表現を活用しながら、自分が本当に伝えたい内容を、即興的に考えながら対話する姿を求めていきたいと思います。